

Y20b ハワイ島・マウナケア山頂域すばる望遠鏡全天カメラの映像活用

毛利 勝廣(名古屋市立大学/名古屋市科学館), 田中 壺(国立天文台), 持田 大作(名古屋市科学館), 白田-佐藤 功美子, 石井 未来, 松元 理沙(国立天文台), 井上 毅(明石市立天文科学館)

ハワイ島・マウナケア山頂域のすばる望遠鏡には、高感度・高解像度の全天カメラが設置され、Maunakea Weather Center サイトで随時更新されている。2024年10月19日に行った「プラネタリウム100周年」×「すばる望遠鏡25周年」記念 全国一斉オンライン講演会イベントでこのデータを利用したのをきっかけに、元データをプラネタリウム用のドームマスター形式に再加工の上アーカイブし、全国のプラネタリウム関係者が利用できるような再配布システムを開発、国立天文台の許可を得たうえで公開したので報告する。

講演会は日本との時差を考慮し、開始時間をマウナケアの日没時頃に設定した。そして講演会中に撮影、アーカイブされた画像の中から最適なものを選択、プラネタリウムで投影しやすい形に整形編集した後、dropbox等を用いて25箇所の会場と共有した。この結果、講演会の進行に合わせて各地のプラネタリウム会場の空を一斉に、準リアルタイムでのハワイの星空に切り替えることができた。当日は紫金山・アトラス彗星がよく見えており、夕焼け、天の川、宵の明星と尾を引く彗星を含む印象的な瞬間の星空を共有することができた。

このプラネタリウム向け全天画像を、名古屋市科学館 web サイトを通じて全国のプラネタリウムや一般利用者が閲覧、ダウンロードできる形で公開した。さまざまな研究拠点等での運営用全天カメラの映像を全国のプラネタリウムで容易に利用できるようにしていけたらと考えている。